

経営比較分析表（平成30年度決算）

千葉県香取市東庄町病院組合 小見川総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	14	-	ド透訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	11,075	非該当	10：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
170	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	170
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
150	-	150

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

当病院は、組合構成市町住民並びに近隣自治体住民の健康保持と福祉増進のため、急性期医療から在宅医療までを総合的に担う地域の中核病院である。
また、公立病院として担うべき救急医療や一般診療と民間医療機関では限界のある高度で専門的な医療の提供により地域医療水準向上の役割を担っている。

II 分析欄

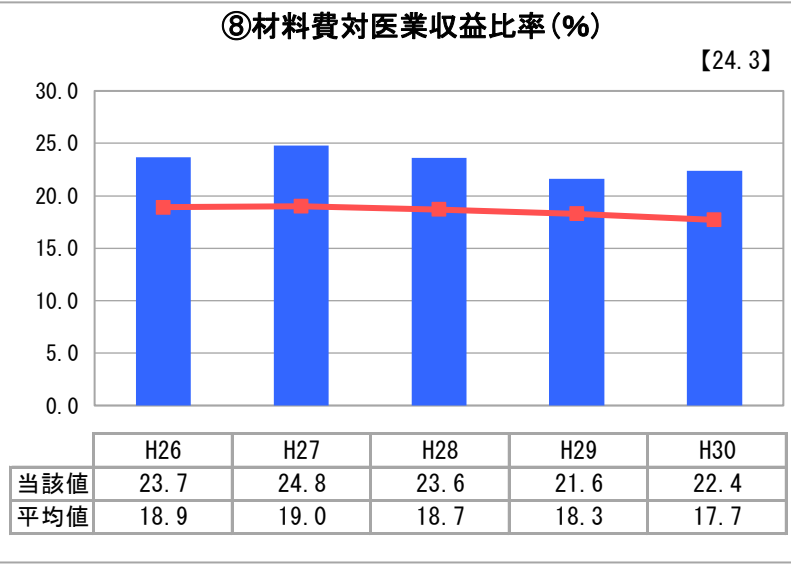
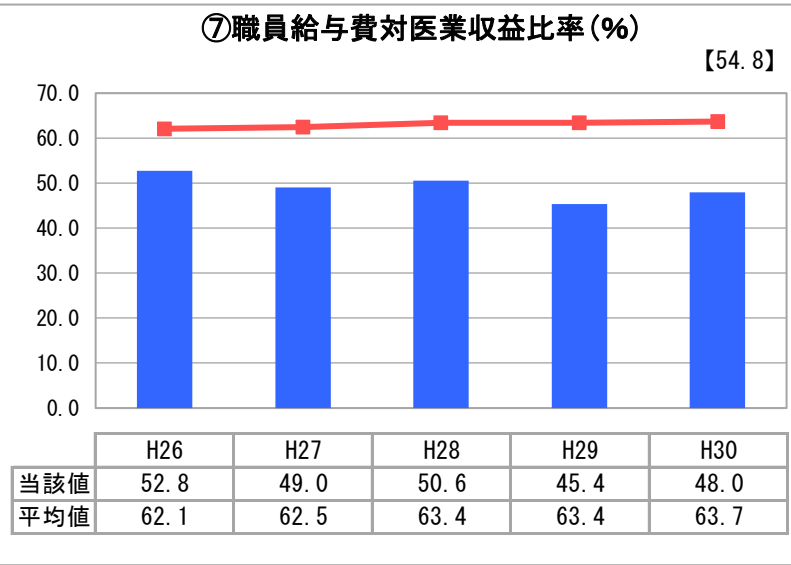
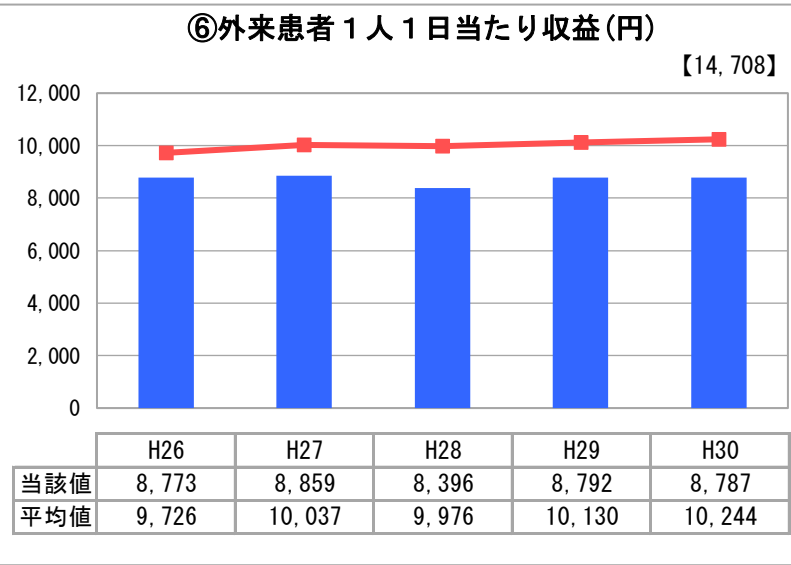
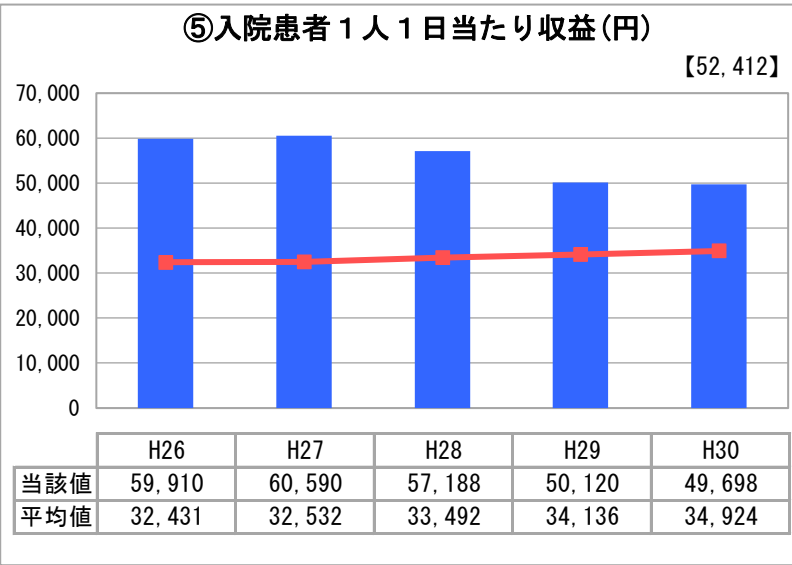
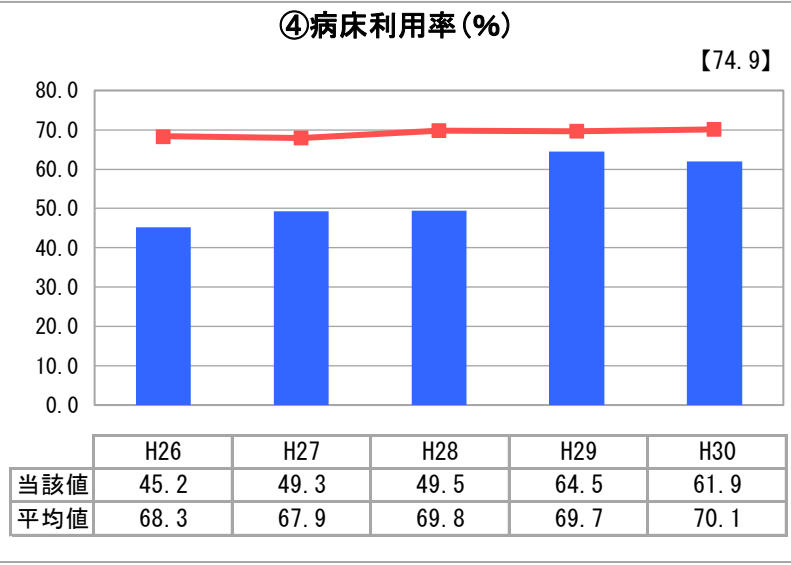
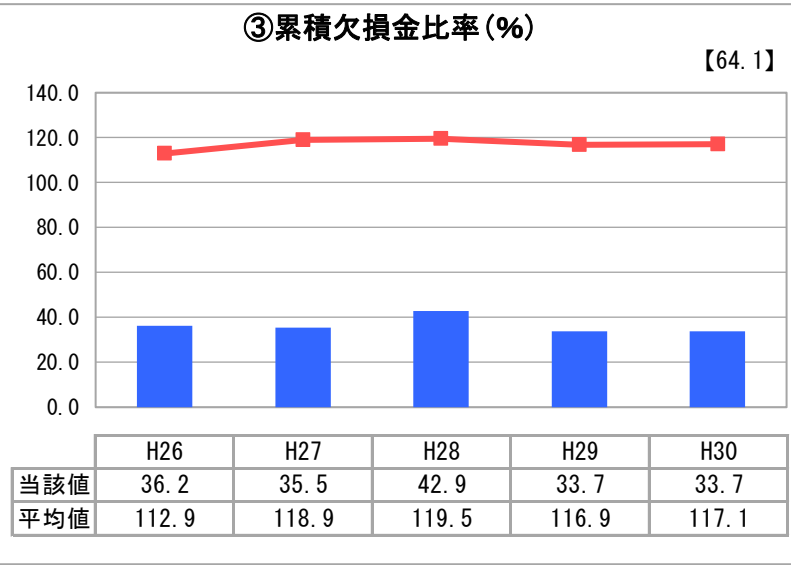
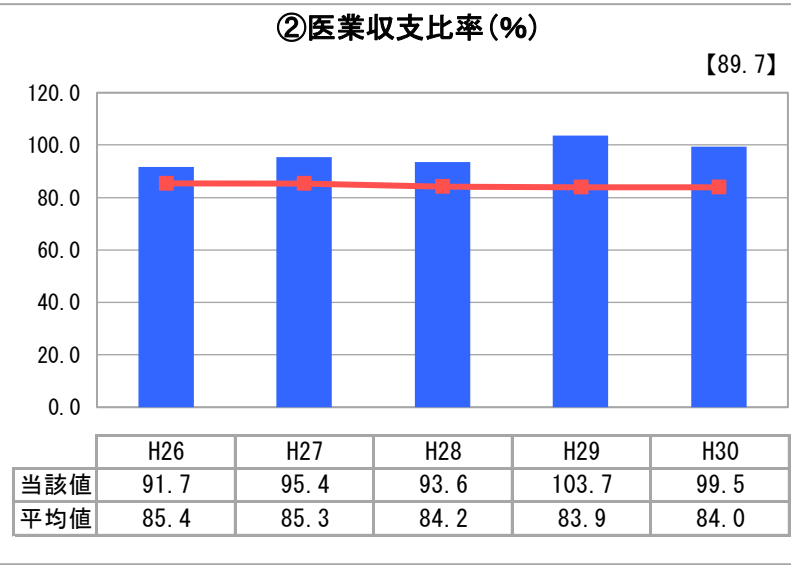
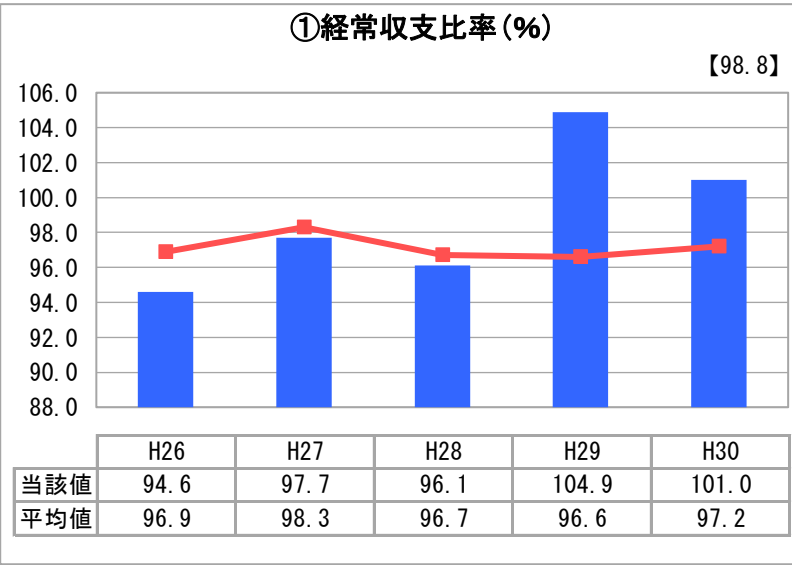
1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性を示す経常収支比率は100%を上回っているものの、当病院前年度比では3.9%低下している。前年度大幅に改善した病床利用率を概ね維持し、地域包括ケア病床の充実に努めた結果、医療収益の確保が図られた。
また、医療収支比率は99.5%となり、類似病院平均値を大きく上回っているものの、材料費対医療収益比率は依然として類似病院平均値を上回っているため、取扱い医薬品や医療材料の見直しを行うことが必要となり、更に人員の適正配置を行うことにより、一層の職員給与費の削減を図り効率的な経営を行うことが必要と考える。

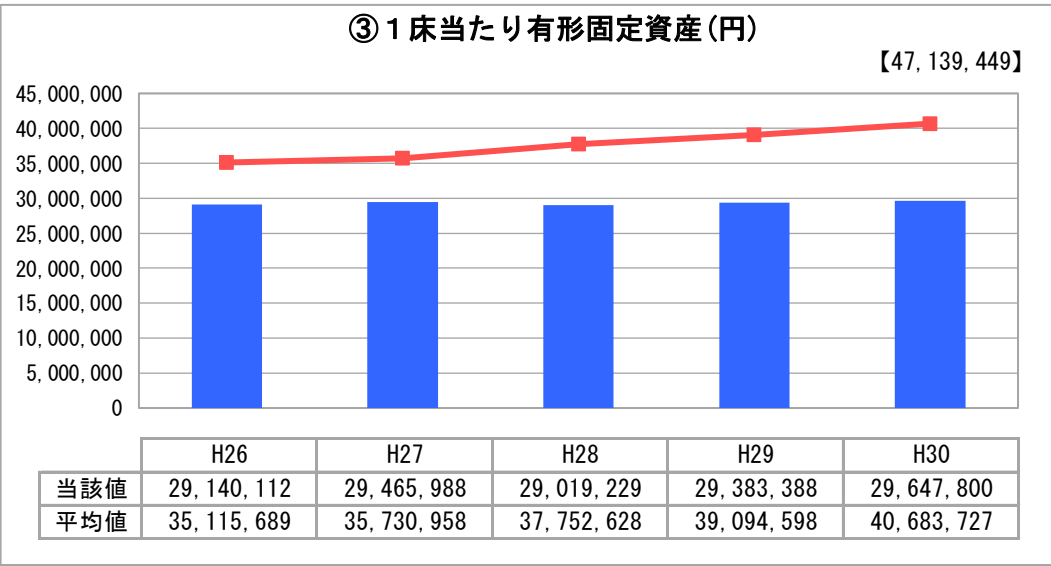
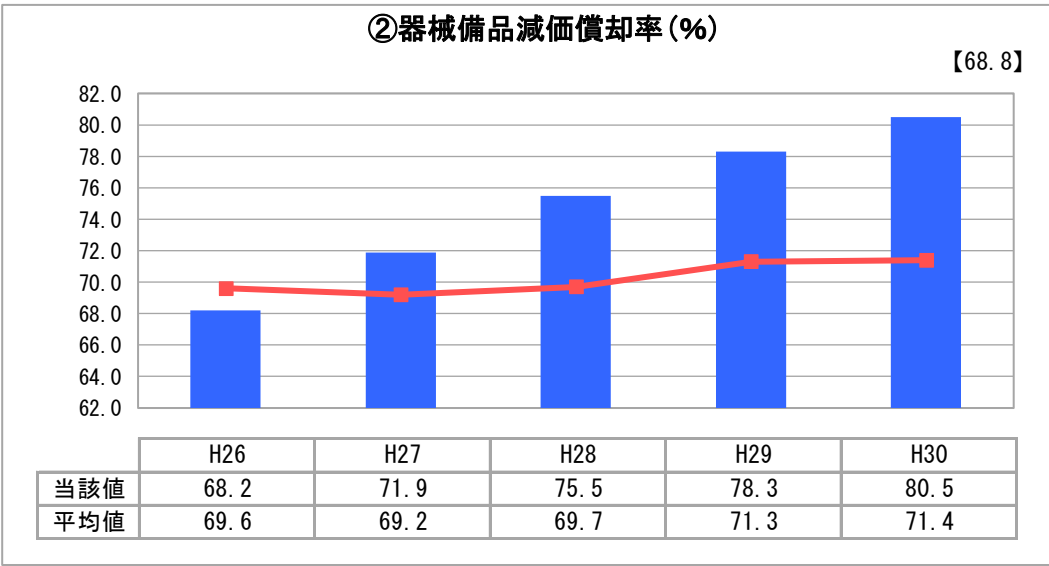
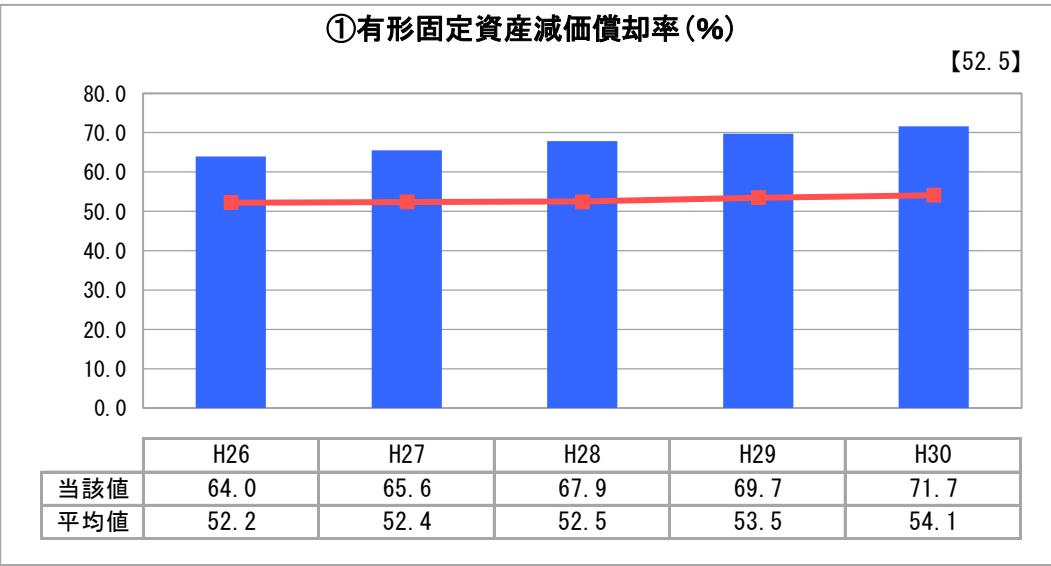
2. 老朽化の状況について

施設は供用開始から40年を経過しており、老朽化及び狭隘化が進んでいため、病院の建て替え整備を進めている。
また、老朽化が著しい医療機器等については、新病院開院に向け購入を進めている。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の各指標の状況を総合的に判断すると、類似病院平均値を上回っており、今後の継続性が重要となる。このことから、安定的な収益確保を行っていくためには、近年減少傾向にある常勤医師を確保することが最大の課題であり、医師を招へいするために様々な手法で確保対策を行っていく必要がある。
なお、現在建て替えを進めている病院の建設費や新病院における医療機器等の整備費が経営を圧迫することが予想される。当地域では今後、人口減少が加速化することが見込まれるため、病院の建て替えにあたっては医療需要などを見据え、病床規模を縮小し適切な病床利用率を確保したうえで、医療水準を維持し効率的な事業運営を行っていく。
また、平成30年度は「小見川総合病院新改革プラン」に掲げた数値目標や経営の健全化に向けた取り組みについて、概ね達成ができていたため、引き続き継続していくことが重要と考える。